

科目名	授業方法	週単位時間	前期	後期	学 科	建築学科
建築計画 I	講義		2	2	学 年	一年次
		年単位時間	前期	後期	教 員	我謝 伴美
			40	40	実務経験	有

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	建築空間の形と規模、空間どうしの繋がり具合等の技術基準を習得する。その中で、人間生活と建築との関連において最も重要な住宅を中心に講義する。
使用教科書・副教材等	学芸出版社『やさしい建築計画』
教員実務経験	建築設計業務、建築設計監理業務

2 追試験基準

前期試験	50点未満
後期試験	50点未満

3 補習授業基準

前期	出席率80%未満
後期	出席率80%未満

4 成績評価の方法《出席時数が授業時数の80%に達しない者は、評価を受けることができない(学則第8条)》

前期・後期	前、後期試験成績	60 %	仮評価		%
	小テスト、提出物	20 %			%
	学習活動への取り組み	20 %			%
		%			%

5 学習計画及び評価方法

学 習 内 容			月	学習のねらい	考查範囲
第 一 学 年	前 期	① 住宅建築 1 住宅	4	・就寝分離・寝食分離を理解させる。	① 試験
			5	・DK・LD・LDKを理解する。	
			6	・平面計画の手法を学ぶ	
		2、集合住宅	7 ・ 8	・低層集合住宅(テラスハウス)(タウンハウス)を学ぶ ・通路形式による分類(階段室型、片廊下型、スキップフロア型、中廊下型、ツインコリドール型、集中型)を学ぶ。 ・住戸形式による分類(フラット型、メゾネット型)を学ぶ。	
	後 期	② 商業建築	10 ・ 11	・事務所建築を学び、理解する。 (1) レンタブル比 (2) 基準階 (3) コアシステム (4) 平面計画 (5) 各部計画	② 試験
			12 ・ 1	・店舗建築を学び、理解する。 (1) 物品販売業 (2) ホテルの分類 (3) 全体計画 (4) 各室計画	
			2 ・ 3	・宿泊施設を学び、理解する。 (1) 宿泊施設の種類 (2) ホテルの分類 (3) 全体計画 (4) 各室計画	

6 特記事項

テキストにより進め、図やイラストレーションを多く用いての解説に努める。 ジャンルごとに学習ポイントと理解を深めて章ごとに問題の解説を設け講義する。
--

科目名	授業方法	週単位時間	前期	後期	学 科	建築学科
建築施工 I	講義		3	3	学 年	一年次
		年単位時間	前期	後期	教 員	新里 竜也
			60	60	実務経験	有

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	建築生産の最終段階である建築施工の実務的知識を得ることで、実際に活用できる能力と態度を育成する。 建築施工の現場実務に関して、各工事別に施工計画、施工管理、躯体工事について段階を追いながら基礎的知識と技術とを習得させる。
使用教科書・副教材等	学芸出版社『やさしい建築施工』
教員実務経験	建築設計業務、建築設計監理業務

2 追試験基準

前期試験	50点未満
後期試験	50点未満

3 補習授業基準

前期	出席率80%未満
後期	出席率80%未満

4 成績評価の方法《出席時数が授業時数の80%に達しない者は、評価を受けることができない(学則第8条)》

前期・後期	前、後期試験成績	60 %	仮評価		%
	小テスト、提出物	20 %			%
	学習活動への取り組み	20 %			%
		%			%

5 学習計画及び評価方法

学 習 内 容		月	学習のねらい	考查範囲
第 一 期	① 工事契約	4	仕様書の内容を理解させ、工事請負契約約款の内容を理解させ、工事請負契約書類の内容を理解させる	①～⑤ 試験
	② 工事監理・施工業務	5	工事管理業務、施工計画、工程計画、安全衛生管理、材料管理の内容を理解させる	
	③ 地盤調査・測量	6	地盤調査方法と調査事項や建築測量の内容、方法を理解させ、平板測量、閉合誤差の調整方法、各種測量方法を学ぶ。	
	④ 仮設工事	7	仮設工事の目的と種類を学び、単管・枠組、足場の構造基準(数値)、特徴を学び、作業床・仮設通路の安全基準を学ぶ。	
	⑤ 土工事・基礎地業工事	8	土・基礎地業工事の内容と施工順序を学び、地下水処理・山留め工法の種類、特徴及び適用地盤を学ぶ。杭、各種地業の種類と特徴及び使用機械を学ぶ。	
学 年 後 期	⑥ 鉄筋コンクリート工事 (加工・組立て)	10	鉄筋の加工機械と熱処理の是非を学ぶ。鉄筋末端部のフックの有無を学ぶ。鉄筋相互のあき及びかぶり厚さを学ぶ。	⑥試験
	(定着・継手)	11	定着・重ね継手の長さや位置を学ぶ。 定着・重ね継手におけるフックの取り扱いを学ぶ。 ガス・圧接の方法と検査の水準を学ぶ。	
	型枠工事	12	型枠組立てにおける品質確保に関する基準を学ぶ。 型枠支保工組立てにおける安全基準を学ぶ。 せき板・支柱(支保工)の部位ごとの取り外し基準を学ぶ。	
	コンクリート工事	1 ・ 2 ・ 3	コンクリートの調合におけるひび割れ対策を学ぶ。 部位ごとの打込み方法と締固め方法を学ぶ。 コンクリートの品質管理と試験方法を学ぶ。	

6 特記事項

テキストにより進め、図やイラストレーションを多く用いての解説に努める。
ジャンルごとに学習ポイントと理解を深めて章ごとに問題の解説を設けて講義する。

科目名	授業方法	週単位時間	前期	後期	学 科	建築学科
構造力学 I	講義		2	2	学 年	一年次
		年単位時間	前期	後期	教 員	我謝 伴美
			40	40	実務経験	有

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	安全で合理的な建築物をつくるのに必要な基礎的な知識と技術を習得させる。
使用教科書・副教材等	学芸出版社『やさしい構造力学』
教員実務経験	建築設計業務、建築設計監理業務

2 追試験基準

前期試験	50点未満
後期試験	50点未満

3 補習授業基準

前期	出席率80%未満
後期	出席率80%未満

4 成績評価の方法《出席時数が授業時数の80%に達しない者は、評価を受けることができない(学則第8条)》

前期・後期	前、後期試験成績	60 %	仮評価		%
	小テスト、提出物	20 %			%
	学習活動への取り組み	20 %			%
		%			%

5 学習計画及び評価方法

学 習 内 容			月	学習のねらい	考查範囲
第 一 学 年	前 期	①力のつり合い	4	力に関する基本的事項、及び構造設計上、必要な力学の過程について理解させる。	①～② 試験
			5	モーメントについて、学習し、正しく理解させる。 力の合成と分解について学習し、理解する。	
			6	力のつり合いの解き方を習得させる。 構造物に働く力(荷重)を理解させる。	
	後 期	②反力	7	構造物のモデル化について、学習し、理解する。 支点と反力について、学習し、理解する。	
			8	構造物の種類を学習し、理解する。 反力の求め方を学習し、理解する。	
	後 期	③応力(部材に生じる力) ・応力の種類 ・応力を求める手順 ・応力図	10	応力を学習し、理解させる。	③ 試験
			11	部材に生ずる力(軸方向力・せん断力・曲げモーメント)の種類を理解させる。	
			12	構造物に働く外力と部材に生ずる力は、つり合うことを理解し、力のつり合い条件から部材に生ずる力を習得させる。	
			1・ 2・ 3	単純梁と片持梁に生ずる力の図(軸方向力、せん断力図、曲げモーメント図)を書けるよう理解させる。 静定ラーメンに生ずる応力の＋・－を判別でき、応力図が正しく描けるように理解させる。	

6 特記事項

テキストにより進め、図やイラストレーションを多く用いての解説に努める。
ジャンルごとに学習ポイントと理解を深めて章ごとに問題の解説を設けて講義する。

科 目 名	授業方法	週単位時間	前期	後期	学 科	建築学科
建築環境 I	講義		1	1	学 年	一年次
		年単位時間	前期	後期	教 員	内間 嘉春
			20	20	実務経験	有

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	人間を取り巻く各環境要素(熱・空気・光)に関する物理的基礎理解、各用語の基礎知識の獲得と、技術計算(熱・空気・光)を習得させる。
使用教科書・副教材等	学芸出版社『やさしい建築環境』
教員実務経験	建築設計業務、建築設計監理業務

2 追試験基準

前期試験	50点未満
後期試験	50点未満

3 補習授業基準

前期	出席率80%未満
後期	出席率80%未満

4 成績評価の方法《出席時数が授業時数の80%に達しない者は、評価を受けることができない(学則第8条)》

前期・後期	前、後期試験成績	60 %	仮評価		%
	小テスト、提出物	20 %			%
	学習活動への取り組み	20 %			%
		%			%

5 学習計画及び評価方法

学 習 内 容			月	学習のねらい	考查範囲
第 一 学 年	前 期	① 概要	4	建築環境とは何かを理解させる。 日本の気候の特徴や、温湿度・風・雨・雪の影響を理解させる。	①～③ 試験
		② 気候・空気	5 6	気象・気候について理解させる。 室内気候について理解させる。 ・ 空気・空気汚染について理解させる。 6 換気量の計算方法、換気の種別や換気計画を理解させる。 自然換気・機械換気について理解させる。	
		③ 熱	7 8	伝熱理論について理解させる。 結露について理解させる。 ・ 断熱、内断熱・外断熱を理解させる。 8 断熱・気密性能と省エネルギーの関係について理解させる。 ガラスの遮音性能と断熱性能について理解させる。	
	後 期	④ 光	10 11	採光について理解させる。 日照と日影について理解させる。 ・ 日射について理解させる。 11 太陽と季節ごとの日射・日影について理解させる。 昼光率と窓の条件、室内の条件や照度の測定条件の関係性を理解させ	④～⑦ 試験
		⑤ 音	12 1	音の性質について理解させる。 吸音・遮音について理解させる。 ・ 残響・反響について理解させる。 1 騒音対策について理解させる。	
		⑥ 色彩	2	光の三原色・色の三原色について理解させる。 色彩の表示や安全色について理解させる。 ・ 色彩が人の心理にもたらす影響について学ぶ。	
		⑦ 用語・単位	3	用語・単位について理解する。	

6 特記事項

テキストにより進め、図やイラストレーションを多く用いての解説に努める。
ジャンルごとに学習ポイントと理解を深めて章ごとに問題の解説を設け講義する。

科 目 名	授業方法	週単位時間	前期	後期	学 科	建築学科
一般構造 I	講義		2	2	学 年	一年次
		年単位時間	前期	後期	教 員	松本 幸太郎
			40	40	実務経験	有

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	木造、RC造建築物の構造形式や構成材料の概略を理解させる。 木構造、鉄筋コンクリート構造、鋼構造を構成する部材名称や部材の働き、 構成方法を理解させる。
使用教科書・副教材等	学芸出版社『やさしい建築一般構造』
教員実務経験	建築設計業務、建築設計監理業務

2 追試験基準

前期試験	50点未満
後期試験	50点未満

3 補習授業基準

前期	出席率80%未満
後期	出席率80%未満

4 成績評価の方法《出席時数が授業時数の80%に達しない者は、評価を受けることができない(学則第8条)》

前期・後期	前、後期試験成績	60 %	仮評価		%
	小テスト、提出物	20 %			%
	学習活動への取り組み	20 %			%
		%			%

5 学習計画及び評価方法

学 習 内 容			月	学習のねらい	考查範囲
第 一 期	前	①荷重・外力	4	固定荷重・積載荷重・積雪荷重・風圧力・地震力を学び、建築物に作用する荷重・外力の種類と組合せを理解させる。	①～② 試験
			5	積載荷重・積雪荷重の考え方や風圧力・地震力の各種係数の意味を理解させる。	
	後	②地盤・基礎構造	6	土の粒子の大きさによる分類や、砂質土・粘性土の違い、不同沈下・液状化現象といった土の性質を理解させる。	
			7	地盤調査・地耐力を学び、地盤の許容応力度を理解させる。	
			8	基礎の種類と特徴、杭基礎の特徴と設計上の留意事項を理解させる。	
学 年	後	③木構造	10・11	木材・木質系材料の種類・性質や、防腐・防蟻処理方法を理解させる。木構造の構造設計や、柱・梁・耐力壁などの構造設計上の留意事項を理解させる。耐力壁量の算定方法を理解させる。	③～④ 試験
			12	木構造の各部構造にて、部材名称を理解させる。木構造の接合法を学び、継手・仕口の名称や、金具名称を理解させる。	
	期	④鉄筋コンクリート構造	1	鉄筋コンクリート構造の構造設計を学び、特有の破壊性状や、柱・梁・耐震壁・スラブの構造設計上の留意事項を理解する。	
			2・3	各部の鉄筋比・定着長さ・継手方法や、コンクリートに生じるひび割れの原因を理解する。	

6 特記事項

テキストにより進め、図やイラストレーションを多く用いての解説に努める。
ジャンルごとに学習ポイントと理解を深めて章ごとに問題の解説を設けて講義する。

科目名	授業方法	週単位時間	前期	後期	学 科	建築学科
建築法規Ⅰ	講義		2	2	学 年	一年次
		年単位時間	前期	後期	教 員	内間 嘉春
			40	40	実務経験	有

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	建築物を計画、設計する上で様々な法規制がなされており、その中で建築基準法、建築基準法施行令、都市計画法、建設業法、建築士法などや関連法令も含め、又、常にその時代の変化に対応し、改正がなされている事柄を踏まえながら講義。さらに、安全で美しく快適な建築空間を計画する上で、設計、運営するための基本的な技術基準を理解する。
使用教科書・副教材等	学芸出版社『やさしい建築法規』
教員実務経験	建築設計業務、建築設計監理業務

2 追試験基準

前期試験	50点未満
後期試験	50点未満

3 補習授業基準

前期	出席率80%未満
後期	出席率80%未満

4 成績評価の方法《出席時数が授業時数の80%に達しない者は、評価を受けることができない(学則第8条)》

前期・後期	前、後期試験成績	60 %	仮評価		%
	小テスト、提出物	20 %			%
	学習活動への取り組み	20 %			%
		%			%

5 学習計画及び評価方法

学 習 内 容		月	学習のねらい	考查範囲
第 一 年 学 年	前 期	① 概要	4 法律の構成は、条→項→号を理解させる。 『及び』『若しくは』等理解させる。 総則、単体、集団その他4つの規定を理解させる。	①～④ 試験
		② 用語の定義	5 建築基準法等にそれぞれ定義されている用語を理解させる。	
		③ 面積・高さの算定	6 敷地面積、建築面積、延べ面積、および高さ等の算定方法を理解させる。	
		④ 建築手続き	7 建築主事、指定確認検査機関による確認について理解させる。	
			8 申請及び届出等の内容と提出先について理解させる。	
	後 期	一般構造等	10 ・採光が必要な居室と居室面積に対する開口部の割合を理解させる。 ・採光有効面積の算定方法を理解させる。	⑤～⑩ 試験
		⑤ 採光	11 ・換気設備が必要な居室を理解させる。 ・換気設備の種類と構造方法を理解させる。	
		⑥ 換気	12 ・使用禁止物質と使用面積制限物質を理解させる。 ・換気設備の設置義務を理解させる。	
		⑦ 石綿規制、シックハウス対策		
		その他	1 ・平均天井高の算定方法を理解させる。 ・階段の各部寸法を理解させる。 ・居室の種別による階段の各部寸法を理解させる。	
	期	⑧ 天井高さ	2 ・尿尿浄化槽、合併処理浄化槽の性能を理解させる。 ・便所の構造を理解させる。	
		⑨ 階段・傾斜路 等	3 ・便所の構造を理解させる。	
	期	⑩ 設備規定		

6 特記事項

テキストにより進め、図やイラストレーションを多く用いての解説に努める。
ジャンルごとに学習ポイントと理解を深めて章ごとに問題の解説を設けて講義する。

科目名	授業方法	週単位時間	前期	後期	学 科	建築学科
建築材料 I	講義		1		学 年	一年次
		年単位時間	前期	後期	教 員	松本 幸太郎
			20		実務経験	有

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	建築物を構成している諸材料の性質、建築物の用途や機能に適した材料選択、構造材や仕上材の使い分けなど建築材料全般に対して、基本的特性や力学的特性、建築物における利用例などを含めて講義する。
使用教科書・副教材等	学芸出版社『やさしい建築材料』
教員実務経験	建築設計業務、建築設計監理業務

2 追試験基準

前期試験	50点未満
後期試験	

3 補習授業基準

前期	出席率80%未満
後期	

4 成績評価の方法《出席時数が授業時数の80%に達しない者は、評価を受けることができない(学則第8条)》

前期	前、後期試験成績	60 %	仮評価		%
	小テスト、提出物	20 %			%
	学習活動への取り組み	20 %			%
		%			%

5 学習計画及び評価方法

学 習 内 容		月	学習のねらい	考查範囲
第 一 期	①コンクリート ・セメント／骨材／水／混和材料 ・コンクリートの調合と種類	4 ・ 5 ・ 6	・コンクリートの特徴(長所・短所)を理解する。 ・コンクリートを構成している原材料(セメント・水・骨材・混和材料)の構成と性質(硬化課程・耐久性など)を理解する。 ・コンクリートの調合設計、調合強度を理解する。 ・区分の仕方によって様々に分けられるコンクリートの種類とその特徴、また、様々な製品について理解する。	①～② 試験
	②鋼材 ・鋼材の種類と特徴 ・鋼材の性質と種類	7 ・ 8	・鋼材の特徴(長所・短所)を理解する。 ・鉄鋼の種類と用途、鋼材の性質を理解する。 ・形状、寸法、化学成分、引張強度などからなる鋼材の種類と記号の意味や分類、用途について理解する。	
学 年	後 期			
学 年	後 期			

6 特記事項

授業は、テキストにより進め、図やイラストレーションとビデオ等を多く用いての解説に努める。
ジャンルごとに学習ポイントと理解を深めて章ごとに問題の解説を設けて講義する。

科 目 名	授業方法	週単位時間	前期	後期	学 科	建築学科
建築設備 I	講義		1	1	学 年	一年次
		年単位時間	前期	後期	教 員	松本 幸太郎
			20	20	実務経験	有

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	建築物に設ける建築設備の中でも給排水衛生設備および防災設備を講義する。さらに安全で美しく快適な建築空間を計画する上で、設計、運営するための技術基準を理解させる
使用教科書・副教材等	学芸出版社『やさしい建築設備』
教員実務経験	建築設計業務、建築設計監理業務

2 追試験基準

前期試験	50点未満
後期試験	50点未満

3 補習授業基準

前期	出席率80%未満
後期	出席率80%未満

4 成績評価の方法《出席時数が授業時数の80%に達しない者は、評価を受けることができない(学則第8条)》

前期・後期	前、後期試験成績	60 %	仮評価		%
	小テスト、提出物	20 %			%
	学習活動への取り組み	20 %			%
		%			%

5 学習計画及び評価方法

学 習 内 容			月	学習のねらい	考查範囲
第 一 期	前	① 概要	4	建築設備の定義と分類を理解する。	①～③ 試験
		② 空気調和設備	5 ・ 6	・空気調和設備の目的、空気の状態や性質、結露の仕組みを理解する。 ・壁体や窓ガラスの熱負荷、人体や照明による空調負荷について理解する。 ・空気調和方式、熱源方式、冷媒の運搬方式による分類を理解する。 ・熱源機器、暖房設備、蓄熱式空調システムについて理解する。	
		③ 給水設備	7 ・ 8	・各種給水方式における種類と特徴を理解する。 ・機器や配管、水量や必要水圧、汚染防止について理解する。 ・給湯方式(局所式、中央式)による特徴を理解する。 ・省エネルギー型給湯設備やガス設備について理解する。	
学 年	後	④ 排水・衛生設備	10 ・ 11	・排水の分類と各種排水方式の特徴を理解する。 ・排水ますや排水トラップ、阻集器や通気管等の仕組みや種類を理解する。 ・衛生器具設備の種類や適性器具数を理解する。	④～⑤ 試験
		⑤ 電気・照明設備	12 ・ 1 ・ 2 ・ 3	・電気・照明設備とは何かを理解させる。 ・電気設備における書類や項目について理解させる。 ・電圧の種別を確認し、供給方式を理解させる。 ・照明方式(直接照明及ぶ間接照明)の特徴や使用箇所、照明器具の種類を理解させる。 ・点光源と照度との関係を理解させる。	

6 特記事項

テキストにより進め、図やイラストレーションを多く用いての解説に努める。
ジャンルごとに学習ポイントと理解を深めて章ごとに問題の解説を設けて講義する。

科 目 名	授業方法	週単位時間	前期	後期	学 科	建築学科
造形演習	演習		2	2	学 年	一年次
		年単位時間	前期	後期	教 員	山田 藍
			40	40	実務経験	無

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	設計者の意図を明確かつ効果的に表現するプレゼンテーションを習得させる。 「建築模型」の実習課題を通し、立体的に建築物を考える力を習得させる。
使用教科書・副教材等	・彰国社『スケッチ感覚でインテリアパースが描ける本』
教員実務経験	

2 追試験基準

前期試験	提出課題の50%未満は追加課題
後期試験	提出課題の50%未満は追加課題

3 補習授業基準

前期	出席率80%未満
後期	出席率80%未満

4 成績評価の方法《出席時数が授業時数の80%に達しない者は、評価を受けることができない(学則第8条)》

前期・後期	提出物	80 %	仮評価		%
	学習活動への取り組み	20 %			%
		%			%
		%			%

5 学習計画及び評価方法

学 習 内 容		月	学習のねらい	考查範囲
第 一 期	①模型作製 ファンズワース邸	4 ・ 5	ミース・ファン・デル・ローエが手掛けたファンズワース邸1/100スケールの模型を作製し、模型材料や道具の使い方、表現方法を習得する	①～② 課題
	②模型作製 鉄筋コンクリート構造2階建住宅	6 ・ 7 ・ 8	鉄筋コンクリート構造2階建住宅1/100スケールを作製し、複雑な構造となる部分の作製方法を習得する。	
学 年	③等角投影法	10	等角投影法を習得する。	③～⑦ 課題
	④平面斜投影法	11	平面斜投影法を習得する。	
	⑤一点透視図法	12	一点透視図法を習得する。	
	⑥二点透視図法	1	二点透視図法を習得する。	
	⑦陰影図法	2 ・ 3	陰影図法を習得する。	

6 特記事項

関連授業として、一般構造、設計製図Ⅰ・Ⅱ

科目名	授業方法	週単位時間	前期	後期	学 科	建築学科
実習 I	実習		3	3	学 年	一年次
		年単位時間	前期 60	後期 60	教 員 実務経験	具志悦雄/松本幸太郎 有

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	のこぎりを使い、板材の切り方を学び、水準測量をを学び、ブロックの積み方を学ぶ。 木工事に於いては、特にエクステリア工事を学ぶ。やり方の方法を学ぶ。
使用教科書・副教材等	・プリント(実施図面) ・学芸出版社『やさしい建築施工』
教員実務経験	具志悦雄: 建築設計業務、建築施工管理 松本幸太郎: 建築設計業務、建築設計監理業務

2 追試験基準

前期試験	提出課題の50%未満は追加課題
後期試験	提出課題の50%未満は追加課題

3 補習授業基準

前期	出席率80%未満
後期	出席率80%未満

4 成績評価の方法《出席時数が授業時数の80%に達しない者は、評価を受けることができない(学則第8条)》

前期・後期	前、後期課題成績	60 %	仮評価		%
	学習活動への取り組み	40 %			%
		%			%
		%			%

5 学習計画及び評価方法

学 習 内 容		月	学習のねらい	考查範囲
第 一 学 年	前 期	① のこぎり使用方法 (本棚6人×4箱) 9h予定	4 のこぎりの扱い方を覚える。 切断位置の印の仕方を知る。 整理、整頓、清掃の習慣を知る。	①～④ 課題
		② 金槌(ハンマー)使用方法 (折りたたみブックスタンド) 9h予定	5 金槌(ハンマー)の取扱いを知る。 釘の印の仕方を知る。 整理、整頓、清掃の習慣を知る。	
		③ 基礎・基礎梁枠加工、建込み 基礎・基礎梁配筋 12h予定	6 基礎、基礎梁型枠の加工、建込みの仕方を知る。 基礎、基礎梁の加工、配筋の仕方を知る。 整理、整頓、清掃の習慣を知る。	
		④ ・パーゴラ付きウッドデッキ作製 15h予定	7・8 杉25×50、杉90×90、足場板杉35×200を材料とし、墨出し、 切断、組み立てを行い、その技術を習得する。 使用金具、工具の取り扱いを知る。 安全上留意事項を学ぶ。	
	年	⑤ 木工事(エクステリア工事) (ピクニックテーブル2台) 9h予定	10 杉25×50、杉90×90、足場板杉35×200を材料とし、墨出し、 切断、組み立てを行い、その技術を習得する。	⑤～⑨ 課題
		⑥ コンクリート・ブロック工事 3h予定	11 墨出し、縦やり方、積み方を知る。 コンクリートの作り方を学び、その圧縮強度を確かめ、理解する。	
		⑦ コンクリート工事 3h予定	12 学校敷地内を水準測量し、その技術を知る。 整理、整頓、清掃の習慣を知る。	
		⑧ 水準測量 9h予定 ⑨ やり方 15h予定	1・2 建築工事を行う上で、高さや位置、中心線を明示する(やり方)を設置する技能を身につけ、それに関する専門用語を知る	

6 特記事項

・道具、工具の取扱い方を知り、各材料の役割を知る。 ・危険予知活動を理解させる。 ・日報記録の大切さを知る。
--

科目名	授業方法	週単位時間	前期	後期	学 科	建築学科
建築設計製図Ⅰ	演習		6	6	学 年	一年次
		年単位時間	前期	後期	教 員	前期:松本/具志/内間 後期:新里/我謝
			120	120	実務経験	有

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	建築設計製図の基本を学び、設計製図の総合的な知識と技術を段階を迫って学習させる。
使用教科書・副教材等	株式会社 学芸出版社 新しい建築の製図
教員実務経験	前期/松本、譜久里:建築設計業務、建築設計監理業務 具志:建築設計業務、建築施工管理業務 後期/内間、新里、我謝:建築設計業務、建築設計監理業務

2 追試験基準

前期試験	提出課題の50%未満は追加課題
後期試験	提出課題の50%未満は追加課題

3 補習授業基準

前期	出席率80%未満
後期	出席率80%未満

4 成績評価の方法《出席時数が授業時数の80%に達しない者は、評価を受けることができない(学則第8条)》

前期・後期	前、後期課題成績	60 %	仮評価		%
	提出物	20 %			%
	学習活動への取り組み	20 %			%
		%			%

5 学習計画及び評価方法

学 習 内 容			月	学習のねらい	考査範囲
第 一 期	前	① 製図の基本	4	・道具の使用方法、線の種類、建具の表示について理解させる。	①～③ 課題
		② 木造2階建て 専用住宅設計図	5	・木造2階建て専用住宅に必要な実施設計図を習得させる。尺度によって かわる表示内容についても習得させる。	
			6	・図面相互の関連性を考え、正確に手早くきれいに描けるように習得させ る。描き方の順序、寸法の表示方法を習得させる。	
		③ 鉄筋コンクリート造設計図	7	・鉄筋コンクリート構造の建築物、設計方法を習得し、建築物を美しく合理的 に設計する力を習得し、建築設計に関する総合的な知識と技術力をつけ させる。	
			8	・鉄筋コンクリート造に必要な実施設計図を習得させる。 (平面図、立面図、断面図、矩計図)	
学 年	後 期	④ 自由設計	10	課題として、鉄筋コンクリート造3階建迄の専用住宅。	④ 課題
			11	・専用住宅の敷地・配置・平面などの各計画にあたって、設計への 具体化について習得させる。	
			12	・専用住宅における各室の形式、適正な規模などを決め、諸条件 に対応した計画の方法について習得させる。	
			1	・鉄筋コンクリート構造の図面、各階平面図、立面図、断面図、矩計 図についてそれぞれの図面のかき方の手順を習得し、鉄筋コンク リート構造の製図法を習得させる。	
期			2	・住宅の設計条件や設計の要点を習得し、設計製図の具体的な流 れを習得させる。	
			3	・模型制作で立体的に表現する方法、プレゼンテーションの手法を 習得させる。	
			3	・作図技術を習得させる。	

6 特記事項

関連授業として、CAD演習Ⅱ、建築計画Ⅰ・Ⅱ、建築一般構造、造形実習、建築法規Ⅰ・Ⅱ
--

科目名	授業方法	週単位時間	前期	後期	学 科	建築学科
CAD演習 I	演習	年単位時間	2	2	学 年	一年次
		年単位時間	前期 40	後期 40	教 員 実務経験	松本幸太郎/譜久里広太 有

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	製図の基礎知識を踏まえてCADによる製図の表現法の基礎知識を習得させる。
使用教科書・副教材等	・(株)エクスナレッジ Jw-cadで学ぶ建築製図の基本 ・プリント『実施図面』 ・全国CAD連盟 建築CAD検定試験問題集
教員実務経験	松本 幸太郎 : 建築設計業務、建築設計監理業務 譜久里 広太: 建築設計業務、建築設計監理業務

2 追試験基準

前期試験	提出課題の50%未満は追加課題
後期試験	提出課題の50%未満は追加課題

3 補習授業基準

前期	出席率80%未満
後期	出席率80%未満

4 成績評価の方法《出席時数が授業時数の80%に達しない者は、評価を受けることができない(学則第8条)》

前期・後期	前、後期課題成績	60 %	仮評価		%
	提出物	20 %			%
	学習活動への取り組み	20 %			%
		%			%

5 学習計画及び評価方法

学 習 内 容			月	学習のねらい	考查範囲
第 一 学 年	前 期	① 建築CADの概要	4	建築CADとは何か。 JWW-CADについて基本事項を習得させる。	①～③ 課題
		② JWWの基本操作	5	・JWW-CADの基本操作、マウス、キーボードの使用操作など習得させる。 ・レイア操作、コマンド操作など。	
		③ 木造住宅の描き方	6 ・ 7 ・ 8	例題を基に、これまでの基本操作を用いて図面の作図法を習得させる。 ・配置図 ・各階平面図 ・断面図 ・立面図 ・矩計図 以上の図面の作図を行う。	
	後 期	④ 鉄筋コンクリート構造の描き方	10 ・ 11	例題を基に、これまでの基本操作を用いて図面の作図法を習得させる。 配置図 各階平面図 断面図 立面図 矩計図 以上の図面の作図を行う。	④～⑤ 課題
		⑤ 自由設計の図面をCADで表現させる	12 ・ 1 ・ 2 ・ 3	例題を基に、これまでの基本操作を用いて図面の作図法を習得させる。 配置図 面積表 各階平面図 断面図 立面図 以上の図面の作図を行う。	

6 特記事項

関連授業として、CAD演習Ⅱ、建築設計製図Ⅱ

科 目 名	授業方法	週単位時間	前期	後期	学 科	建築学科
コンピュータ概論	演習		2	2	学 年	一年次
		年単位時間	前期	後期	教 員	加藤 勇
			40	40	実務経験	有

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	IT化社会といわれる現代のビジネス社会や日常生活において、覚えておく と便利なWord・Excelの基本操作を理解します。文書作成から基礎関数など を習得し、様々なビジネスシーンでの活用を目標とします。
使用教科書・副教材等	Word2019 クイックマスター基礎編／Excel2019 クイックマスター基礎編 日本語ワープロ検定文書・速度/情報処理技能検定試験表計算 各模擬問題
教員実務経験	

2 追試験基準

前期試験	評価の50%未満は追加課題
後期試験	評価の50%未満は追加課題

3 補習授業基準

前期	科目出席率80%未満
後期	科目出席率80%未満

4 成績評価の方法《出席時数が授業時数の80%に達しない者は、評価を受けることができない(学則第8条)》

前期・後期	試験評価	70 %	仮評価		%
	出席率	15 %			%
	学習への取り組み	15 %			%
		%			%

5 学習計画及び評価方法

学 習 内 容			月	学習のねらい	考查範囲
第 一 期	前	① Excel基本操作	4	1) Excel画面構成を理解し、基本操作を覚える基本操作 2) データの編集方法を理解する	情報処理 模擬問題
		② Excel表・グラフ作成	5	1) 表の編集 2) ブックの印刷(PDF保存・編集) 3) グラフと図形の作成	
		③ Excel関数・データベース	6	1) ブックの利用と管理 2) 関数(基本)を覚える	
		④ Excel実技演習	7	1) 関数を覚える 2) 情報処理技能検定3級模擬問題	
		⑤ 情報処理技能検定問題 (各級)	8	1) 関数を覚える 2) 情報処理技能検定準2級模擬問題 3) データベース機能の活用方法を習得	
学 年	後	⑥ Word基本操作	10	1) ホームポジションを理解し、タッチタイピングを实践 2) 文字の入力・編集および文章の編集を理解する	日本語 ワープロ模 擬問題
		⑦ Word文書作成	11	1) 文書の作成 2) 表を使った文書の作成 3) 文書の印刷(PDF保存・編集)	
		⑧ Word実技演習	12	1) 図形や画像を使った文書の作成 2) 総合学習問題	
		⑨ 日本語ワープロ模擬問題	1	1) 日本語ワープロ検定模擬問題4級～3級	
			2	1) 日本語ワープロ検定模擬問題準2級から1級	
			3	1) 日本語ワープロ検定(文書作成)試験	

6 特記事項

--

科目名	授業方法	週単位時間	前期	後期	学 科	建築学科
就職実務 I	講義		1	2	学 年	一年次
		年単位時間	前期	後期	教 員	加藤 勇
			20	40	実務経験	有

1 学習の到達目標等

学習の到達目標	【前期】就活以前の事前学習⇒基礎学力試験対策 【後期】企業の採用活動、就職活動を理解させると共に、必要な企業の情報収集方法等から応募関係書類の準備作成
使用教科書・副教材等	【前期】これだけは知っておきたい!面接対策&ビジネスマナー(ウイネット) 【後期】就職試験サポートドリル(実務教育出版)
教員実務経験	

2 追試験基準

前期試験	成績評価の50%未満
後期試験	成績評価の50%未満

3 補習授業基準

前期	出席率80%未満
後期	出席率80%未満

4 成績評価の方法《出席時数が授業時数の80%に達しない者は、評価を受けることができない(学則第8条)》

前期・後期	試験評価	70 %	仮評価		%
	出席率	15 %			%
	学習への取り組み	15 %			%
		%			%

5 学習計画及び評価方法

学 習 内 容			月	学習のねらい	考查範囲
第 一 学 年	前 期	自己紹介 (学生情報収集)	4	・学生との距離を詰め、学習や就活への取り組み方などを周知。 個人の能動的意欲を促進させる。	前期試験
		【面接対策&ビジネスマナー】 面接の重要性と 自己PRの作成 企業説明会 履歴書作成	5	『面接対策&ビジネスマナー』を使用 ・社会人としての基本的なビジネスマナーについて学習する。 ・面接の大切さを理解させる。 ・実践を想定した面接練習を行う。 ・自己分析の重要性を理解させる。 ・実践を想定した自己PRを作り上げる。	
			6		
			7		
			8		
	後 期	【就職試験サポートドリル】 筆記試験対策 (一般常識を含む) 【就職活動・企業研究】 企業説明会 インターンシップ 採用試験受験 (採用試験対策)	10	『就職試験サポートドリル』を使用 ・国語(漢字の読み書き) ・数学(計算) ・英語(アルファベット/単語) ・社会(政治/経済/地理/歴史) ・常識(時事/社会/文化/科学) ・随時小テストを実施し、学生の習熟具合を確認する。 ・インターンシップ 実際の職場環境を体感し、企業研究を更に深める。 ・就職活動対策 一般常識などの筆記対策、履歴書作成、面接質問対策	後期試験
			11		
			12		
			1		
			2		
3					

6 特記事項

--